たけうまファンド

2022年8月31日基準

運用実績

1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
9.7%	19.2%	15.0%	6.6%	6.2%	1494.3%

※ 証券口座現在の資産残高基準。投資信託、iDeCo、仮想通貨、FX（外貨証拠金取引）は含まず。
※ 過去の実績データがない期間においては数字を未記載としています。

ポートフォリオ構成

実質株式保有比率		80.0%
	国内株式	63.9%
	海外株式	16.2%
現金（円・ドル）		20.0%

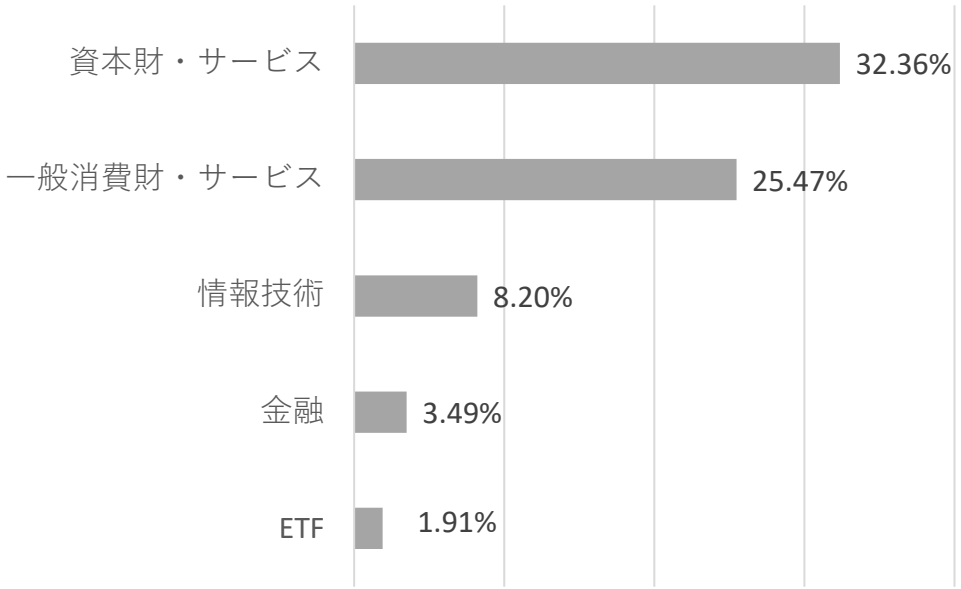
※比率は証券口座の現在の資産残価に対する割合
※信用口座での保有株式については含み損益のみ計上

分配実績

設定来累計分配金　0円

※上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。
※成長ないので分配なし。

業種別組み入れ比率



※ 業種はGICS（世界産業分類基準）によるものです。
※ 優待株は含まず。

たけうまファンド

2022年8月31日基準

たけうまファンドの組み入れ銘柄の状況

組入上位10銘柄

	銘柄名	比率 業種	銘柄紹介
1	ウルトラファブリックスHD（4235）	21.00% 一般消費財	湿式合皮製造販売。従来からのSDGs加速にコロナ後の感染対策、テレワーク需要で成長一段階上へ。
2	シンメンテHD（6086）	8.32% 資本財	飲食店厨房メンテからコロナ禍経て他業種へも拡大。人手不足と感染対策とコスト削減を解決する。
3	ServiceNow, Inc.（NOW）	8.20% 情報技術	ITSM主力のSaaS。業務の自動化、DXは生産性向上に資するため人手不足・高インフレ下でも需要大。
4	日揮（1963）	7.55% 資本財	総合エンジニアリング。世界経済ブロック化に向かう中でエネ安全保障での重複投資の一翼を担う。
5	ドラフト（5070）	7.35% 資本財	オフィスやSC、都市開発のデザイン。社長や優秀な人材が競争力。新しい生活様式での需要拡大期待。
6	オカダアイヨン（6294）	5.80% 資本財	解体用アタッチメント。建替え、電炉、バイオマスなどで市場拡大。今期が設備投資のピーク。
7	Tapestry, Inc.（TPR）	4.47% 一般消費財	コーチやケイトスペード擁する婦人アパレル製造販売。経営危機から復活再生中。コロナ明けに期待。
8	MSCI Inc.（MSCI）	3.49% 金融	指数を開発販売。株価指数の提供だけにとどまらず、ESGやファクター含めマルチアセット市場狙う。
9	ベネフィット・ワン（2412）	3.35% 資本財	福利厚生アウトソーシング。既存客法人への経費精算などHR分野でのクロスセルを狙う。
10	WisdomTree 天然ガス上場投資信託（1689）	1.91% ETF	「Bloomberg Natural Gas Subindex」の総合商品指数 に 連動する投資成果を目指すETF

※ 上記は組入銘柄の紹介を目的としてたけうまが作成しており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。

たけうまファンド

2022年8月31日基準

ファンドおよびマーケットへのコメント

8月の相場が終わり、当ファンドは主力銘柄の力強い上昇に支えられ非常に良好なパフォーマンスを残すことができました。一方で懸念や課題も浮き彫りになった一か月でもありました。

なんといっても好調の要因はウルトラファブリックスHDの上昇に因るところが大きく、これに大いに助けられました。決算翌日のストップ高の反応はやりすぎであると思ってしまったため一部を売却してしまい今となっては後悔するところですが、そのまま持っていればパフォーマンスはよかったのは確かでも1銘柄でのウェイトが高くなりすぎていたので判断としては正しかったと思っています。おかげで相場が軟調な展開を迎えている現在でも厚めのキャッシュポジションが維持できているのもあります。

懸念はドラフトとサービスナウです。ドラフトは受注は好調ながら案件の収益計上が先になるものが多い、サービスナウは為替の逆風と直近で計上される収益見通し（cRPO）の伸びが顧客の投資決定サイクルの長期化で4Qに集中するようになっているということで失望される決算でした。どちらも設備投資産業であるためじわじわと景気鈍化の影響が出てきているようで今後の動向を注意深く見守っていく必要があります。

課題は信用枠で行っている短期トレードでやらかしてしまい今まで積み上げてきた収益をすべて吐き出してしまったことです。せっかく現物ポジションが調子よくてもこんなことをしていては何の意味がありません。むやみやたらに取引するのではなく、落合博満の盗塁のように確度の高い場合のみ取引するのを心がけてまいります。

米国株は大きくポジションを削減しました。現金代替的な精神的安全弁として保有を続けていたプロクター＆ギャンブルと、クラウドストライクを全て売却しました。P&Gについてはポジポジ病が落ち着いてきて現金を持っていられるようになったという個人的都合と、値上げ文化が浸透しているアメリカでも生活必需品においては値上げのペースに制約がありステルス値上げが横行しはじめるなどインフレが今後も継続すると厳しい状況になってくるのではないか、という判断です。CRWDについては成長が維持され通期ガイダンスが引き上げられても、現時点の株価でももっと投資家の期待は高かったという状況で、今年後半や来年さらに成長加速が期待できるのか、という点を考慮して売却となりました。

来月といいますか、今後は日本株が優位な展開が続くと考えているので円に戻したうえで日本株を増やしていこうと考えていますが現時点で買いたいと思えるような株がなく、9月は様子見の一か月になりそうです。スイングのETFを入れても10銘柄しかなく、一時の20銘柄近く持っていた頃とは雲泥の違いです。不安定な相場展開が続いており無理に増やすような時期でもないため、じっくり銘柄を選定してタイミングを考えてエントリーするようにしていくつもりです。

勝って奢らず、兜の緒を締めて9月相場に挑んでまいります。

※ 今後の見通しと運用方針は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により当該運用方針が変更される場合があります